

平成 30 年度家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：平成 30 年 10 月 17 日（水）

○講話「子どもを取り巻く現代の課題」

宇都宮共和大学 子ども生活学部 准教授 石本 真紀 氏

石本先生からは、児童指導員やNPO活動の御経験に基づいた実践的な内容を織り交ぜながら、少子高齢化社会における子どもやその保護者を取り巻く課題について詳しくお話しいただきました。児童虐待や子どもの貧困の実態についても触れ、重く大きな課題でしたが、子どもの長所をさりげなく言葉でほめることなど、「できることから始める大切さ」について教えていただきました。受講者は「寄り添う、見守るなどでよいならば、できそうな気がした」と今後の活動へのヒントを得ることができたようです。



○説明・演習「遊びの中で学ぶ子どもたち」

総合教育センター幼児教育部 幼児教育専門員 栗田 英子
幼児教育専門員 鈴木 明子

はじめに、子どもの学びに繋がる遊びの重要性について、幼児期の特性や発達、大人の役割といったキーワードを基に分かりやすく説明していただきました。子どもにとっては、身の回りの物全てが遊び道具になり、例えば「木の葉」を「お金、切符、ままごとのお皿」などに見立て、想像力を働かせているということや、たとえ言葉を発していなくても、イメージとして子どもの中に蓄積されていることなど、幼児期の特性について学びました。

演習では、子どもたちが楽しめる「手遊び」や「わらべうた」などを教えていただきました。受講者からは「手遊びは、活動の始めに行えば、親子のコミュニケーションに役立つと思った」など体験を通じて実感を得たようです。



○ふりかえり「家庭教育支援においてわたしたちにできること」②

最終日の発表に向けてグループ編制を行ったり、これまでの講話や演習、フィールドワークから心に残ったことを書き出したりしてふりかえりをしました。



【受講者の感想】

- ・ 幼児期の手遊びは、頭も体も全部使わないと大人でも上手くできないことに気がきました。これを子ども達が全部覚えて、上手くできるようになるためには、本当にいろいろな力がバランス良く育って行かないと不可能だと思います。特性のある子どもは、やはり難しいこともたくさんあると思いますので、できる・できないの視点ではなく、「いかに楽しむか」を大事にする幼児期を過ごせるかどうかが鍵になるのではないかと思います。
- ・ 自分にできることは小さいことですが、少しでも地域に還元できればと思い努力していくつもりです。
- ・ 体を使って遊ぶと無心になれる。一体感ができてきて、初めて会った方ともすぐに友達になれ、コミュニケーションをとるには、最適だと思いました。
- ・ 地域の声かけ、支援が大切だと思いました。
- ・ 地域の大人のあり方、重要性を学ばせていただきました。
- ・ 体を使った遊びは楽しかったです。ゲームばかりの子ども達に伝えていきたいです。



活動ですぐに活躍できるよう、運営体験もしています！

研修終了後、家庭教育オピニオンリーダーとして地域で活躍できるように、受付や司会等を交代で体験しています。



託児を実施しています！

小さいお子さんをもつ保護者の方にも、この研修を受けていただくことができるよう、託児を実施しています。



託児事業も3年目に入り、年々、希望者が増えてきています。今回は4人の子ども達が参加しています。

保護者は、子どもを託児に預けることで、落ち着いて子育てに関する学びや気づきのための時間を得ることができているようです。また、子どもは、保護者から離れている間に、できることが増えたり、保護者以外の人との関わりが持てるようになったりしているようです。「一日の研修が終わると、我が子の成長する様子が楽しみです」などと好評です。

<利用者の声>

複数で対応していただいているため、非常に安心して預けられ、学ぶことができます。子ども向けのおもちゃもたくさんあり、お友達（一緒に託児に行っている）もいて、子どもも行くのを楽しみにしているようです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206

E-mail: shogai-c@tochigi-edu.ed.jp